

かっぱの通信

2017年12月17日

vol. 120

発行 北川かっぱの会

<http://kitagawakappanokai.la.coccan.jp/>

<http://kitagawakappanokai.cocolog-nifty.com/blog/>

冬、来てる来てるぞ
号



ボク、カエルだってザリガニだって持てるよ！

報告 今年の北山いきものクラブの活動

今年からはじめた北山いきものクラブ。水生生物を展示、またタモ網を貸し出して一緒に魚などをとってみようというミニイベントです。第2土曜日の13時から15時で、年6回を予定しましたが、雨天で2回中止。4回の開催になりました。場所は北山公園です。

メインとなった、水生いきもの展示。その日のうちに採取した北山公園内の外来種と北川の在来種を来園者に見てもらいました。外来種はアメリカザリガニ、ウシガエルをたくさん展示しました。これはかっぱの会の外来種駆除活動の日程を北山いきものクラブに合わせ、駆除活動でとった外来種をそのまま展示しました。在来種ではモツゴ、ドジョウ、オイカワなど、ふだんの北川でみられる魚たちを展示しました。珍しいところではカマツカの展示ができたり、ナマズの幼生がいました。ナマズも成長すると怖いですが、幼生はかわいらしく人気になっていました。アメリカザリガニを持てるか？ 小さな子どもたちの関門です。「うしろからつかめばはさまれないよ」初めて持てた子の

したり顔、やっぱりダメだった子、真剣なまなざしでアメリカザリガニと対峙してました。

水生生物の展示は、これまでの「春のうららかウォーク」「わんぱく夏まつり」の経験からして定番イベントと思っていました。来園者の多くが足を止めてくれました。大人たちは自分の子どもころの経験と重ねて感慨深く見てゆきます。外来種の解説にも熱心に耳を傾けてくれました。

水生生物展示がメインとなりましたが、タモ網の用意をして、一緒に魚とりをしてみようと待ち構えていました。だけど、タモ網を借りていった子どもたちには大人は邪魔なだけのようで、目をかがやかせて北山公園の水路にタモ網を突っ込んでいました。北川のほうがイロイロいるんだけだなあ。

水生生物だけでなく、昆虫採集、野鳥観察などもやれるといいなと思います。得意な人は、ぜひスタッフ側としてきてください。北山生きものクラブは植物だってOK。北山公園でいきものと遊べれば何でも可のゆるいイベントです。お気軽に顔を出していただきたいと思います。来年もまた、ぜひ。かっぱのサイト内に「北山いきものクラブ」専用ホームページを作りました。実施予定日などはこちらをご覧ください。

kitagawakappanokai.la.coocan.jp/kiclub/ (はんべえ)

報告 狭山公園宅部池に北川の魚を放流しました



秋晴れとなった11月5日(日)、北川に棲む在来種の魚を狭山公園宅部池に放流しました。狭山公園宅部池では2016年1月に2回目のかいぼりが行われ、オオクチバス等の外来種やコイ等の国内移入種について駆除を行うことができました。ところが、これらの外来種や国内移入種が池を占有していた

結果、在来種はギンブナやヨシノボリ等の限られた種だけがかろうじて生き延びている状況でした。このような中、かつての宅部池の生態系や景観を取戻す一環として、北川の源流部に位置する宅部池に北川に棲息する在来種の魚を放流することになりました。

当日の午前中、北川かっぱの会のメンバー6名がNPO birthの担当者とともに北川やしょうちゃん池で魚の捕獲をしました。既に11月という

ことで魚影は薄く、捕獲には苦勞しましたが、ギンブナやヨシノボリ、ドジョウなどの捕獲を行うことができました。

狭山公園は今年で開園 80 周年を迎えていましたが、これを記念し、当日の午後のガイドウォークの中でこれらの在来種の魚の放流を行いました。ガイドウォーク（写真）は親子連れなど約 80 名が参加していましたが、ガイドから外来種の問題点やかいぼりの意義、北川に棲息する在来種を放流する意義などの話があり、親子連れの代表者が午前中に捕獲された魚（一部の魚種）の放流を行いました。宅部池の生態系や景観が、外来生物のいなかった頃の姿に戻っていくことを期待するものです。

報告 今年の外来生物捕獲結果と外来生物慰霊祭

北川かっぱの会では、2013 年 4 月より北山公園しょうちゃん池とその周辺で、在来生物の脅威となっている外来生物の捕獲を行っています。今年の捕獲数は最終的に表のとおりとなり、ウシガエル（成体）が 100 個体、アメリカザリガニが 1000 個体を超えました。活動の成果かもしれませんが、「今年はウシガエルの声を聴かなくなった」、「多くのトウキョウダルマガエルの姿を見かけるようになった」などの声が届くようになりました。

11 月 11 日には外来生物慰霊祭を開催し、捕獲した外来生物の霊を慰めました。慰霊祭で改めて感じたことは、個々の外来生物が悪いのではなく、人間の勝手な所業により外来生物が放たれ、多くの在来生物脅かされ里山の生物多様性や景観に大きな悪影響を与えているということです。北川かっぱの会では、来年以降も在来生物の生息環境の改善と外来生物の捕獲に取り組んでいきますので、引き続き皆様方のご理解ご支援をお願いします。



北山公園周辺におけるウシガエル等の捕獲状況 2017/12/8現在

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
アカミミガメ	9	11	4	2	5
クサガメ(再捕獲を含む)	13	10	8	1	5
ウシガエル(成体)	2	1	3	42	106
ウシガエル(幼生)	10	24	約550	192	86
アメリカザリガニ	99	126	約550	約760	1127

ちゃっかりスズメバチ

八国山には、何種類かのスズメバチが見られます。秋には特に数も増えて凶暴になり、刺されるとアナフィラキシーショックで大事に至ることもあるので、コナラの樹液酒場に群れているのを遠巻きに眺めたりします。オオスズメバチが最も大きくいかにも恐ろしいですが、チャイロスズメバチと言うちょっと変わったスズメバチがいます。

チャイロスズメバチはやや小型のスズメバチで、体の色は褐色で黄色味が全くないため、見た目での種類と区別ができます。でも、特に変わっているのは生態で、このハチは自分で巣作りをせず、女王バチが単身キイロスズメバチやモンズメバチの巣に侵入し、相手女王バチを殺してちゃっかり巣を乗っ取ってしまうのです。そして残されたキイロスズメバチやモンズメバチの働きバチは、そのままチャイロスズメバチの女王のもとで働き続けることとなります。これら働きバチは、短命なので次々寿命が尽きていき、いつしかチャイロスズメバチの女王が産んだ働きバチと総入れ替えになってしまうのです。このようなことから、社会寄生性のスズメバチと言われています。

チャイロスズメバチは数が少ない種類ですが、たまに八国山でも樹液等で見かけることがあります。しかし、かなり凶暴性が強いので、見つけても刺激せずに遠くからそっと観察する程度にしてくださいね。

(ビー永島)

チャイロスズメバチ
(八国山)

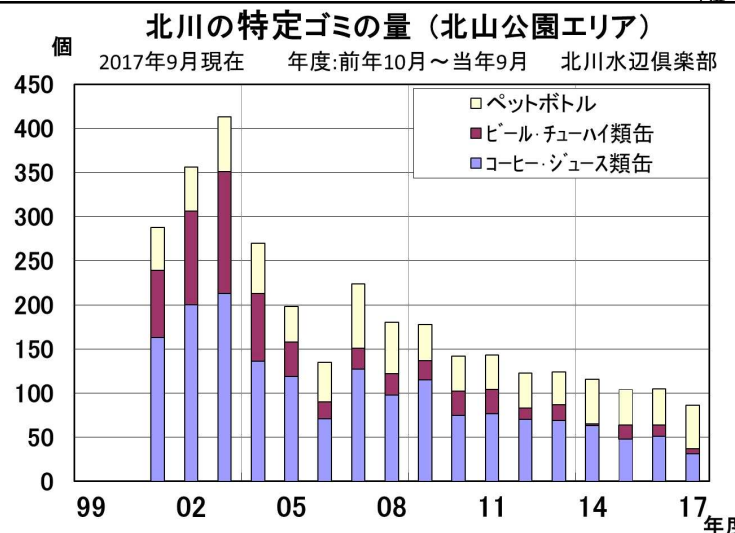
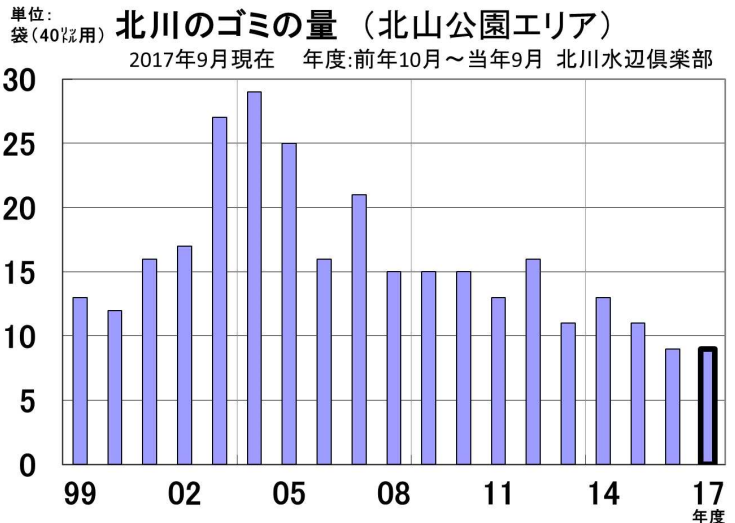


報告 今年の定例川そうじの結果

北川かっぱの会では、毎月第2土曜日の午前中に「定例川そうじ」を実施しています(北山小前～西武園線鉄橋下)。川そうじが終了した時に収集したゴミの仕分けを行い、そのゴミの量の計測を行なっていますが、このほど平成29年度の調査結果(毎年10月～9月)がまとまりました(データは松村さん提供)。ゴミの総量は平成16年度をピークに減少しているものの、ここ何年

かは大幅に減少するような傾向にはなく、今年度は昨年度と同様な結果でした。また、ゴミの内、缶やペットボトルなど「特定ゴミ」の本数は平成15年度をピークに減少し、今年度は昨年度と比較し、特定ゴミの内の缶類やビン・ワンカップ等の危険ゴミが減少しています。以上について、今年度は天候の影響等から、川そうじの開催を見送った月が多かったことから、ゴミの量が減少しているかどうかは慎重に見極める必要があると思われる、今後の推移を見守っていく必要があると思われます。

北川かっぱの会では、子どもたちが安心して遊ぶことのできる、地域の住民が愛着をもつことのできるような北川の川づくりを目指しています。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



報告 市主催「外来種バスターズ入門講座」 第3回成果発表と修了式」に参加しました

11月26日（日）東村山市みどり公園課主催の標記講座最終回が北山小学校でありました。

当日は7月の第1回、9月の第2回の講座の成果をスライドで振り返り、その後、それぞれが自分の想いを付箋に書き、大きな紙に貼ってみんなで共有しました。（写真）

「参加して感じたことや思ったこと」は、外来種についてきちんと知ることが出来てよかった、水辺の生き物の捕獲体験、ガサガサなどが楽しかった、植物の駆除がとても大変だった、北山公園は自然が豊かだとわかった、面白い講座だった。東村山市やるな！と思ったなどの意見が出ました。



「今後、どんな活動がしたい？どんなことが必要だと思う？」では、もっとたくさんの方が知ることが必要、この講座を継続する、学校で講座を開くといい、「かいぼり」を体験したい、外来種（ザリガニやウシガエル）を捕獲したら料理して食べてみるなど楽しい企画で駆除行動を広めたいという意見が出ました。外来種の知識をもっと深めたい、来年度以降も外来種

駆除イベントに参加したいといううれしい意見も出ました。

小学生や中学生や若い世代が多く参加したおかげで活気ある講座となり、将来の活動につながる期待感を持ちました。

（久）



「野鳥をみよう空堀川」

11月25日、南台・富士見小土曜子ども講座「野鳥をみよう空堀川」が、児童13人が参加して行われました。

いつものように、まず中央公園で林の鳥を観察します。しかし、まだ葉が多く茂り、ヒヨドリしかゆっくり観察できませんでした。でもその後、東村山西高の前でシジュウカラを観察することができました。

空堀川ではお約束のセキレイ類3種の観察を狙います。「東村山の鳥」ハクセキレイは、すぐ近くまで来てくれます。セグロセキレイも何度か現れましたが、キセキレイは僅かなチャンスでなんとか観察できました。川ではカ



ワケミ、セグロセキレイ（空堀川）コサギ、カルガモなども観察できました。民家の真っ赤な実が鈴なりのピラカンサには、カワラヒワがやって来て美味しそうに実を食べていました。

最後に最近恒例の鳥のぬり絵大会をして、楽しく終了することができました。（ビー永島）

2017年12月～18年3月 活動スケジュール

ホ は **ホ**ランティア募集 の略

性別、年齢、経験不問。HP、ブログ(検索:北川かつぱの会)
または直接会員にお知らせください



定例川そうじ 毎月第2土曜 9-11時

1/13、2/10、3/10(土) **ホ**

集合：北山小正門前

北川かつぱの会 会議日程

臨時定例会

1/6(土)16:00～17:30

2018年度の活動方針などについて
検討(サンパルネ3階)

定例会2/11(土) 14:30～16:00

2018年の活動方針、4月頃までの
活動の詳細などについて
(多摩湖ふれあいセンター)

総会 3/10(土)頃16:00～18:30

廻田公民館で開催予定

川端会議 2/17(土)10-12時

ふるさと歴史館。北山公園周辺の
環境整備について、市、市民、市
民団体の話合いの場。誰でも参加
可能です。

小学校土曜講座 **ホ**

富士見・南台小 野鳥観察

1/6(土) 八国山と北山公園
雨天中止

多摩湖緑地・原風景を守る会活動日程

12/24 (第4日曜) 13:30～

1/14 (第2日曜) 9:00～

1/17 (第3水曜) 13:30～

畑にて維持管理作業と収穫と落葉かき

会費納入のお願い

今回、今年の会費について未納の方には振込用紙を同封させていただきましたので、最低限の活動を行なっていくためにも、会費（一般会員；年間3000円）のお振込をお願いいたします（既に振込済の方にも振込用紙を送付している可能性があります。悪しからずご了解ください）。2015年より、新たに「支援会員（主にカンパで支援していただける方が対象で、2年間で2000円（学生は1000円）」の区分を新設しています。振込用紙の該当欄に記入をお願いするとともに、これまで一般会員だった方々には、引き続き一般会員の区分で継続していただけますと幸いです。

なお、りそな銀行あて送金される場合には、
shot-1205@kjc.biglobe.ne.jp
吉田あてご一報いただけますと幸いです。

北川かつばの会刊行物

『未来の川へ・北川復元プラン』
北川復元プランのパイロットケースとして、北山公園周辺の北川が変わりつつあります。21世紀の未来の川の姿を探る一冊。頒価1000円 送料82円

新一般会員には無料贈呈

『北川流域マップー未来の川へー』

北川公園、八国山を歩くための地図。流域の生き物ミニ図鑑付き。

A2両面版 頒価200円

『八国山・北山公園の
生き物観察ガイド』

A2両面版の生き物ミニ図鑑と解説。観察会などイベントで無償配布。
NEW! 『北川・八国山・北山公園
いきものマップ』

かつばの会20周年記念発刊。
北川・八国山・北山公園では、どこにどんな生き物が見られるか、環境ごとに誰もが普通に見られる種を主体に示したマップ。観察会などイベントで無償配布。A2両面版。

かつばの会会員募集

狭山丘陵の東麓、トトロの故郷北山公園一帯の緑の保全とその前を流れる北川の清流復活という夢をもって作られた会です。自然と野外の遊びが大好きで、趣旨に賛同、活動に参加できる方（参加、入退会自由）を広く募集しております。

●会費 一般会員：年間3000円
支援会員：2年間で2000円
学生は2年間で1000円

「かつば通信」年5回をお送りします。

●問い合わせ・申込み先

<http://kitagawakappanokai.cocolog-nifty.com/blog/>

●会費振込先

〔郵便振替 00120-6-104476〕

〔りそな銀行東村山支店
(普)3605694〕

加入者名 北川かつばの会



●かつば通信は市内の公民館と図書館に置いています。

●編集後記 世界の3人に1人は、安全で衛生的なトイレを使えないという。そこにトイレを普及するため1人の日本人が挑戦中と、新聞で読んだ。ウォークマン、アイホンが生活を変えた革新的発明というが、その恩恵を受けない人たちにとってはトイレの普及が生活を変えるものになるに違いない。世界の課題の深さを知る記事だった。(遊星歯車)

●発行：北川かつばの会

連絡アドレス

CZT12221@nifty.ne.jp